

ユネスコ工芸都市加盟認定から10年。活躍する工芸家たちの手仕事に迫り、作品に込められた想いや制作のこだわりを紹介しします。



つくる人

Vol.2

いちのたかのぶ

市野貴信さん

(信水窯)

陶芸家として日々作陶に励む傍ら、マグロの解体師として活躍されている市野貴信さん。高校卒業後は、デザインの専門学校に進学するも、家業をつぐことに抵抗があり、バイト先のスーパーの鮮魚コーナーで魚さばきに没頭しました。

しかし、同世代が家業を継ぎ、陶芸家として活躍する姿を見るにつれ、祖父が築き上げてきた窯元を守りたいと思い、陶芸家になることを決意。京都で陶芸や釉薬を勉強した後、父の2代目市野信水さんを師事されました。そして、1年後には丹波焼の若手陶芸家グループ「グループ窯」に入り、いろいろなことにチャレンジしながら、作陶に励まれることになりました。

陶芸の道に入り6年目。市野さんは、日用食器を主に作られ、器を手にしたときの持ちやすさや、手に触れた質感にもこだわりの持ち作陶されています。「用途によって、小鉢やコップ、お茶わんなどにはいろいろな使いやすさがあると思います。小鉢なら料理が盛りやすくなり、コップでしたら持ちやすさや口当たりをよくしたりと、使って楽しくなるような器を意識しながらつくっています。そして、普段の食卓で、より料理が映えるような温かみのある作品を作り出していきたいと思っています。」と力強く話されます。また、市野さんの作品は、お皿やカップの内側にガラス釉(薄い膜)がキラキラと光っているのが特徴。食べ終わった後にガラス釉が見えることも楽しみのひとつだそうです。現在、マグロの解体師としても活動の場を広げている市野さん。「マグロのショーを通して、マグロ料理に合う食器などを提案し、丹波焼の魅力を伝えていきたい」と熱い思いを話されました。

催しのご案内

- 最古の登り窯公開焼成
5月31日～6月1日
- グループ窯花器展
8月(神戸阪急)

多紀連山のクリンソウを守る会 観察会

クリンソウは、湿地に自生するサクラソウ科の多年草で、4月下旬から5月下旬に花を咲かせます。多紀連山のクリンソウを守る会では、クリンソウの群生が見ごろを迎える中、毎年観察会を行われています。2007年に篠山鳳鳴高等学校OBの皆さんらが、登山中にクリンソウの群生を発見。その後の調査で、約4300㎡に約17万株の大群落と判明しました。2009年には、公開して多くの目で群生地を守ってほしいと、同会を立ち上げ、総会後には現地調査を兼ねて、毎年観察会が行われるようになりました。細見隆夫会長は「今後も、クリンソウがどういった状況でどう変化していくのかをこれからも追っていきたいと思います。そして、自然のすばらしさを子どもたちには知ってほしいです」と力強く話されました。



御田植祭

藤坂の春日神社で5月11日に執り行われた「御田植祭」。牛役や農民役に扮した6人の男性が、田んぼに見立てた舞堂に上がり、「土を起こす」「土をならす」「苗を植える」の動作を繰り返して、豊作を願いました。祭事は、藤坂地区に住む60歳から70歳までの男性が禰宜を務めて守り継いできました。しかし、集落の人口も少なくなり、禰宜の取り決めが難しくなったことから、祭事の服装を羽織袴から礼服に変え、お供えを小豆ご飯から草餅にするなど、簡略化を進めてきました。中馬義治自治会長は「禰宜が行う行事についても、集落の住民が分担して行う方向になりました。今後も祭礼の伝統を守り続けるため、工夫して取り組んでいきたい」と話されました。



6月を楽しむ【祭事・イベント】

- 篠山自然派直売会=6月
- 第43回大国寺と丹波茶まつり=6月7日(土) / ホテル観察会=6月7日(土) 予定
- 高蔵寺あじさいまつり=6月中旬～7月上旬 / 丹波篠山国際博 初夏の篠山ビアガーデン=6月～7月
- 篠山吹奏楽団サマーコンサート=6月7日(土) / 王地山焼展示販売会6月13日(金)～29日(日)
- 丹波篠山動揺唱歌まつり=6月22日(日) / 当野のお当「振る舞いのちまきかぶり」=6月29日(日)



丹波篠山国際博
日本の新しい農村、未来へ

丹波篠山国際博だより

問い合わせ 丹波篠山国際博実行委員会事務局 ☎558-8891



今月のこんにちは市長室

市長が市政に対してのご意見やご要望をお聴きする場として開催しています。事前の申し込みは不要で、懇談会または1人15分程度の面談です。

とき 6月10日(火) 16:00~19:00
ところ 本庁舎3階 応接室
問い合わせ 市長公室 ☎552-5109

ふるさといちばん

市長の **HOT** とく

丹波篠山の時代をつくろう



ミラクルタウン 丹波篠山

4月に開催したこんにちは市長室にモリルさんご夫妻がお越しになりました。お2人は、1年半前にアメリカのシアトルから丹波篠山市に移住され、空き家となっていた水井邸をリフォームされました。野菜を作ったり、丹波木綿を作ったりと丹波篠山市での暮らしを楽しんでおられます。

お2人からは、「丹波篠山市に初めて訪れたとき、ふるさとを感じました。丹波篠山市には日本の原風景が残っています。また、移住して来た人を温かく受け入れてくれる人がたくさんいます。星空がきれいで、農村の田園も美しいです」とお褒めの言葉をいただきました。さらに、「この丹波篠山市はミラクルタウンです」とまで言っていたいただきましたので、この喜びを市民の皆さんにお伝えします。

魅力がどんどんアップ!

小田垣商店宿泊施設「豆家」

黒豆の老舗「小田垣商店」に棟宿「豆家」が誕生しました。お値段は1泊平均16万円からとのことでしたが、この部屋を見てもらえば納得です。丹波篠山市はどんどん格調高くなります。5月17日からオープンしています。



おみや城下町店

市役所のすぐお隣です。「おみや」さんの猪肉はもちろん、それだけでなく、丹波エリアを中心としたえりすぐりのお土産物や工芸品も販売されています。ペットフードも充実しています。



グランヴィリオホテル丹波篠山 和蔵

ルートイングループの永山勝利会長からホテル建設のお話があってから丸8年。「丹波篠山の城下町の風情・景観は特に素晴らしい。飛騨高山より上だ。ぜひともよいホテルを建設して、丹波篠山を全国に発信したい」と言っていたいただいており、ご努力、ご辛抱に心から感謝申し上げます。1泊2食付きで約2万円で、上質ながらお手ごろです。



SASAYAMA COTTON BASE

サムライジーンズが、「SASAYAMA COTTON BASE」を野間にオープンされました。ひときわ目立つ青いコンテナハウスで、収穫した綿を糸にして、生地を作る体験、布を黒豆で染める体験ができます。1日1組の宿泊棟やショップもあります。約3haの農地で和綿の無農薬栽培が行われています。



SPOT LIGHT

— スポットライト —

地域で活躍する団体などをピックアップ

野間地区に綿づくりの体験施設がオープン

野間地区を中心にジーンズづくりの綿花を栽培するサムライジーンズなどを製造・販売している有限会社サムライ(大阪市・野上徹代表取締役)。同社は、原材料からすべて国産にこだわろうと和綿を自家栽培するため、2012年から真南条地区で栽培を開始。2018年に野間地区に拠点を移しました。運営は「サムライコットンファーム」が行い、休耕地を活用して今年は3.4haの栽培が予定されています。

4月29日には、綿からジーンズができるまでの工程を学べる施設「SASAYAMA COTTON BASE(ササヤマコットンベース)」をオープンされた同社。施設では、収穫した綿を種と繊維に分ける「綿繰り」の体験や、繊維を糸に紡ぐ機械などの見学、手織り作業の体験もできます。このほか、黒豆や丹波栗を染料とした染め体験を楽しむこともできます。また、1日1組(4人)限定の宿泊棟やジーンズのショップなども併設されています。

野上代表取締役は「このようなものづくりが体験できる施設は全国どこにもないと思います。海外からいろいろなお客さんに来てもらって、篠山を少しでもにぎやかにしていきたい。また、綿が新たな丹波篠山の特産になればうれしい」と笑顔で話されました。



サムライコットンファームの
おだのりさお いたつまさひろ
萩野久雄さん、伊藤眞士さん、野上徹さん(写真右から)

大学連携でんしよばと

問い合わせ
神戸大学・丹波篠山市農村イノベーションラボ ☎FAX 506-6628
丹波篠山フィールドステーション ☎FAX 506-2366

丹波篠山フィールドステーションとは?

丹波篠山フィールドステーションは、神戸大学が丹波篠山市と連携して教育・研究・人材育成に取り組む拠点です。

また、ここは地域おこし協力隊の活動拠点にもなっており、コーディネートする(一社)丹波篠山キャピタルのスタッフも駐在しています。地域おこし協力隊員もシェアオフィスとして利用している当施設に、皆さんも気軽にお越しください!



あべりあ
神戸大学大学院 農学研究科 特命助教

まちづくり協議会の活動や中間支援組織について研究中。地域の皆さんと交流できることを楽しみにしています。



みはらかなこ
神戸大学大学院 農学研究科 教育研究補佐員

施設管理や事務のほか、祭囃子などの音楽の保存・伝承に取り組んでいます。丹波篠山の交流や研究の拠点となる施設づくりをめざします。

フィールドステーションを拠点に働く スタッフ紹介!



(一社)丹波篠山キャピタル
地域おこし協力隊コーディネーター
左から
たにがきゆり かぐちひでき いわさあやこ
谷垣友里、河口英樹、岩瀬綾子

地域おこし協力隊の活動支援を主に行っており、隊員を受け入れているまちづくり協議会との連絡・調整なども担っています。お住まいの地区のまちづくり協議会で、隊員を受け入れてみたい場合は、気軽にお問い合わせください。